

フォーマルな場面における晴れ着の着用嗜好について

奈良女大家政 中川早苗 ○樋泉淑子 聖母女学院短大 長井満里子

目的 生活の合理化、洋風化などの変化にともなって和服着用の機会が少なくなり、冠婚葬祭や通過儀礼など和服は特別の日の衣服となり、若い女子学生の間でも、成人式や卒業式、謝恩会、パーティ等、特別の日の晴れ着として着用されるようになってきている。本報では、若い女子学生達がそれぞれのフォーマルな場面にどのような晴れ着を着たいと思っているのか、それぞれどのような方法で調達するのか、また、生活態度や衣生活態度との間にどのような関連があるのかを明らかにするために調査を行い検討した。

方法 I、II年生の女子大生 206名、短大生 329名を対象に昭和62年9月～10月、質問紙調査法による調査を行った。質問項目はフォーマルな場面での晴れ着の着用嗜好とその調達方法、生活態度、衣生活態度である。データの分析には単純集計、クロス集計および数量化Ⅱ類の手法を用いた。

結果 単純集計の結果、成人式には振袖、卒業式には袴姿、謝恩会・友人の結婚披露宴パーティにはドレスを着用したいというものが最も多く、大学、短大別に若干差異は見られるが、場面別の嗜好パターンは定着しているといえる。友人の結婚披露宴での着用嗜好から、振袖派、ニューキモノ派、ドレス派の3タイプにわけ、生活態度、衣生活態度とのクロス集計を行い $\chi^2$ 検定を行った結果、いくつかの項目でタイプ間に差異が見られた。また晴着の調達方法から購入派、レンタル派の2タイプにわけ、生活態度、衣生活態度とのクロス集計を行い、同じように $\chi^2$ 検定を行った結果タイプ間に多くの項目で差異が見られた。